

京都工芸繊維大学  
京都府立大学  
京都府立医科大学

平成26年4月から京都三大学の「教養教育共同化」が始まります。

共同化の趣旨

三大学は、それぞれ100年を超える歴史を持ち、国内外で活躍する有為な人材を多く輩出してきましたが、変化の激しい今日にあって、時代が求める新たな教養教育を構築していくため、次の3点をねらいとして取り組みます。

- ①三大学は個々に規模が小さく、各大学で提供できる科目には限りがあるため、各大学の強みと特徴を生かした科目を提供し、学生の科目選択の幅を広げ、学習意欲を一層高めること
- ②文系、理工系、医学系の専門分野や将来の志望の異なる三大学の学生が授業で混在し、多様な視点や価値観を交流して、一緒に学ぶ学修空間を創り出すこと
- ③学生間での交流や討論、共同学修が進むよう学生参加型の授業を広げていくこと

教育の目標

グローバル化や少子高齢化の進展など課題が山積する中で、多様な事象に関心を持ち、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性を持つ人材の育成を目指して次の3点から取組を進めます。

- A 人文・社会・自然諸分野の基礎を幅広く修得し、これらへの高い関心を育てる
- B 世界の人々の多様な生き方を感じ、豊かな人間性と高い倫理観を涵養する
- C 日々社会に生じる種々の問題において、真理や正義を探究する議論に習熟する

京都府が平成21年に策定した「北山文化環境ゾーン構想」の中で、京都府立大学は、植物園、総合資料館、コンサートホールとともに、文化・学術・環境地区を構成する一要素として位置付けられています。現在、本事業のために、鉄筋コンクリート3階建ての教養教育共同化施設(仮称)の建設が進められています。



1階には、3大学の学生が共同で学ぶための最大100~200名収容の講義室が計6室、また、府民の方もご利用いただけるレストラン等の設備が予定されています。



この施設の建設には、福盛和夫氏(京セラ株式会社名誉会長)から、20億円の寄付をいただいています。施設名は「福盛記念会館」です。

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の京都三大学は、各大学の特徴・強みを活かしたカリキュラムを提供し、学生の多様な関心に応え、総合的に物事を観察し、的確に判断できる能力と豊かな人間性の涵養を図っていくため、平成26年度から全国初となる教養教育共同化をスタートします。

交流しながら学ぶ新しい学修空間を創出

共同化 Q & A

Q. なぜ三大学で取り組むのですか

A. 三大学は、キャンパスが近接して、従来から単位互換や課外活動等で学生・教員の交流が進んでいます。その蓄積を踏まえ、全国初の取り組みとして進めようとするものです。

Q. どのように教養教育共同化は行われるのですか

A. 三大学の学生が一堂に会して学ぶようにする必要がありますが、現在、各大学ともキャンパスが手狭なため、府立大学の敷地内に教養教育共同化施設(仮称)の整備が京都府によって進められています。この施設で各大学から提供された科目の授業が行われ、三大学の学生の皆さんが混在して一緒に学ぶこととなります。

Q. 来年度から始まる共同化の内容はどのようなものですか

A. 初年度の平成26年度は、共同化科目として、人文系21科目、社会系21科目、自然系19科目の61科目に加え、少人数による討論等を中心としたリベラルアーツ・ゼミナール7科目の計68科目でスタートします。これにより三大学の学生の科目選択の幅が2~5倍と大きく増加し、諸分野をバランス良く履修することができそうです。

Q. 共同化カリキュラムにはどのような特長がありますか

A. 各大学からその強みと特徴を生かした科目が提供されていますが、特に京都という地の地域的、歴史的、文化的特色を生かした10科目の「京都学科目」が提供されます。そのうち1科目は「京都学事始—近代京都と三大学」として三大学の足跡を見詰めながら京都の近代化の様相を概観するリレー講義方式の新設科目も予定しています。

Q. 共同化科目の授業はどのように行われるのですか

A. 各大学の年間のスケジュール(学年暦)はそれぞれ異なっていますが、三大学の学生が一緒に学ぶようにするため学年暦を調整し、来年度は月曜午後の3つの時限に集中して共同化科目を提供することとしています。なお、リベラルアーツ・ゼミナールの一部は冬期等に集中して開講する予定です。

Q. 共同化科目の単位はどのように扱われるのですか

A. 各大学から提供された共同化科目は、それぞれの大学が自ら提供する科目と原則として同じように取り扱うこととしています。したがって、学生が所属する各大学において、自大学の科目として単位認定を行います。

Q. 今後共同化の取組はどのように展開していくのですか

A. 学修状況や授業の成果、学生からの要望等を踏まえつつ、科目の拡大等共同化の更なる展開に向けて検討を進めます。また、従来から実施してきた三大学の教養教育単位互換の取組も充実を図りつつ継続します。さらに、講演会やシンポジウム等によって取組状況をお知らせし、また、生涯学習の機会としても提供していきます。

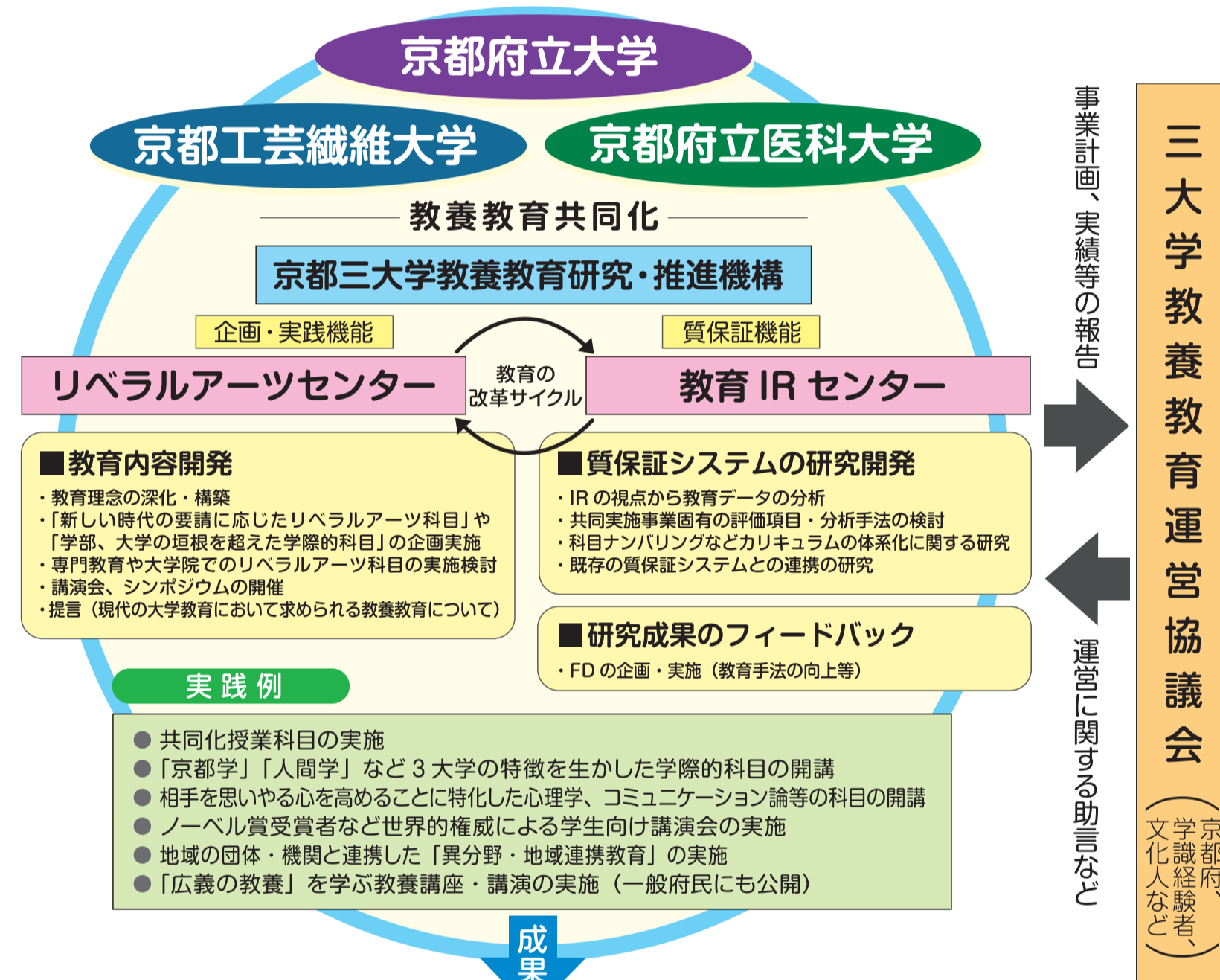
京大三大学共同化教養教育のカリキュラム

各科目が、A.幅広い知識の修得、B.多様な人間世界の事象に触れ生き方を感じ思考する、C.真理と正義に係る多面的な議論や論考に習熟する、A.B.C.のどの性格を持つかを示し、科目選択の参考となるようにします。

人間と文化(21科目)	人間と社会(21科目)	人間と自然(19科目)	リベラルアーツ・ゼミナール(7科目)
<ul style="list-style-type: none"> <li>哲学</li> <li>人間学</li> <li>比較宗教学</li> <li>宗教学</li> <li>日本史</li> <li>東西文化交流史</li> <li>日本文学I</li> <li>日本文学II</li> <li>西洋文学論</li> <li>日本近現代文学</li> <li>文芸創作論</li> <li>西洋文化論</li> <li>ラテン語</li> <li>音楽</li> <li>美と芸術</li> <li>アジアの歴史と文化</li> <li>京都の文学I</li> <li>京都の文学II</li> <li>京の歴史</li> <li>京都の歴史I</li> <li>京都の歴史II</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政治学</li> <li>現代政治</li> <li>国際政治</li> <li>公共哲学</li> <li>経済学入門</li> <li>生活と経済</li> <li>現代日本と経済</li> <li>人文地理学I</li> <li>人文地理学II</li> <li>現代京都論</li> <li>科学史</li> <li>科学と思想</li> <li>地球の科学</li> <li>宇宙と地球の科学</li> <li>エネルギー科学</li> <li>環境問題と持続可能な社会</li> <li>キャンパスヘルス概論</li> <li>心理学</li> <li>現代社会と心</li> <li>現代社会とジェンダー</li> <li>現代教育論</li> <li>医学史</li> <li>人権教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と自然と数学α</li> <li>人と自然と数学β</li> <li>物理学I</li> <li>人と自然と物理学</li> <li>化学概論I</li> <li>化学概論II</li> <li>生物学概論I</li> <li>生物学概論II</li> <li>人類生態学</li> <li>科学史</li> <li>科学と思想</li> <li>地球の科学</li> <li>宇宙と地球の科学</li> <li>エネルギー科学</li> <li>環境問題と持続可能な社会</li> <li>キャンパスヘルス概論</li> <li>心理学</li> <li>現代社会と心</li> <li>現代社会とジェンダー</li> <li>現代教育論</li> <li>医学史</li> <li>人権教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>感覚で探る問題解決の方法</li> <li>現代社会に学ぶ問う力・書く力</li> <li>社会科学の学び方</li> <li>現代社会と映画制作</li> <li>アメリカと中国はいま</li> <li>現代イスラム世界の文化と社会</li> <li>感性の実践哲学</li> </ul>

京都学(10科目)(再掲)

- 京都学事始—近代京都と三大学
- 京都の文学I
- 京都の文学II
- 京の歴史
- 京都の歴史I
- 京都の歴史II
- 現代京都論
- 京の産業技術史
- 京都の自然と森林



取組の成果を「京都モデル」として全国の大学へ発信

国公立の設置形態を超え、大学間の相互連携を推進する平成24年度からの文部科学省の事業です。この事業を活用して「京大三大学教養教育研究・推進機構」を設置し、教養教育共同化の取組を進めています。事業が終了する平成28年度には取組の成果を「京都モデル」として全国の大学に発信します。

京都三大学 教養教育研究・推進機構  
Institute of Liberal Arts and Sciences

**京都工芸繊維大学の概要**  
京都工芸繊維大学は、明治32年(1899年)に設立された京都産業講習所および明治35年(1902年)に設立された京都高等工芸学校に端を発する110余年の歴史の中で、「知と美と技」を追求する独自の学風を築き上げてきた。現在は工学部の一学部からなり、生命物質科学、設計工学、造形科学、先端科学技術課程(夜間主コース)からなっている。

**京都府立大学の概要**  
京都府立大学は、明治28年(1895年)に設立された京都府簡易農学校に端を発する。京都府簡易農学校は後に京都府立農林専門学校と改称された。昭和24年(1949年)4月に、京都府立農林専門学校と京都府立女子専門学校を前身として開設された西京大学が、昭和34年(1959年)に京都府立大学と改称して誕生した。現在は文学部、公共政策学部、生命環境学部の3学部11学科からなっている。

**京都府立医科大学の概要**  
京都府立医科大学は、明治5年(1872年)に、府民自らの寄付によって、京都東山の青蓮院に建設された瘡病院から誕生した日本最初の医科大学である。140年の歴史の中で培った「人間愛」「地域貢献」「国際的視野の涵養」という教育理念は今も変わることなく引き継がれ、人々の健康に貢献する人材を育成し、全人的な医療を実践してきた。現在は、医学部医学科と医学部看護学科の1学部2学科からなっている。

【京大三大学教養教育研究・推進機構】  
〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町65番地 グラシル北山201号室  
TEL:075-706-5136 FAX:075-701-8820 E-mail:kyouyou@kpu.ac.jp URL: http://kyoto3univ.jp/

京大三大学の立地関係

京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学とともに、京都の下鴨神社を取り囲むような形で位置している。

それぞれの最寄駅は京都市営地下鉄丸太線にあり、京都工芸繊維大学が松ヶ崎駅、京都府立大学が北山駅、京都府立医科大学が丸太町駅である。

三大学ともに距離も近く、相互の行き来が十分可能である。

三大学の学生が学ぶ「教養教育共同化施設(福盛記念会館)」は、北山駅徒歩3分の京都府立大学の敷地内に建設される。



京大三大学交響楽団による演奏

教養教育の共同化が始まる以前から、三大学の学生間の交流は進んでいる。例えば、三大学には、「京大三大学交響楽団」が組織されており、サークル活動における交流は深く、日ごろから学生の練習が大学の垣根を超えて行われている。平成24年度の三大学教養教育共同化フォーラムでは、冒頭に「京大三大学交響楽団」が演奏を行った。



京大三大学は教養教育共同化を幅広い府民の理解のもと進めていくため、様々な取組を行っています。去る11月16日には京都府立大学において、三大学の教養教育共同化フォーラム、鴻上尚史講演会「不安を楽しむ!」が開催されました。会場は学生、OB、一般の人など約300人の聴衆で埋め尽くされ、学生たちとのトークセッションも交え、今を生きる上でのヒントが語られました。

「考えること」と「悩むこと」

この二つの違いをいけば「考える」は提案が浮かび、「悩む」は提案が浮かばない。不安になると考える前に価値判断してしまう。こういう思考停止の状態からさらに不安が生まれる。相手が敵か味方か第一印象で判断するクセがある人はそのクセから離れること。クセとはオートマチックなもので思考停止の状態。そこにはライバルやチャレンジはない。表現はオートマチックな状態からは生まれない。好きか嫌い、0か100かは子どもの発想。実社会に0か100はない。どこまで歩み寄るか、一緒にできるかを明確にするのが大人のやり方だ。

コミュニケーションとは

コミュニケーションというお互いが分かり合うことのだが、実は「私」と「あなた」の違いを明確にすることがコミュニケーションの目的。互いの違いを認め合うことが重要なのだ。「友だち100人できるかな」と、新1年生に言ったりするが、「友だち100人」できないのは最低だ、と不安になったりする。本当は「気の合う人がいた?」と聞いてあげれば、「友だち100人」とか「みんな仲良し!」とかはオートマチック。つまり思考停止の状態。不安になると考える前に判断しがちだが、「なぜ不安で、どういうメカニズムで不安になるのか?」自分で考えて判断するのが生きていく知恵といえる。

世間と社会

日本人は世間—自分にとって利害・人間関係が生じる空間—には気を遣うが、社会—自分とは直接関係のない人々—には気を遣わない民族。世間に扱われて不安を感じるのとはそこにとっつき溜かっているための思考停止状態であるからといえる。この数十年の間に大きな会社がどんとつぶれた。今や大体3年くらいの周期で不安になって当たり前。クリアに未来が見える方がおかしい。今こそ「不安につきあう」技術を磨き、その根源へのアプローチを試みるべき。



鴻上尚史氏  
作家・演出家。1958年愛媛県生まれ。1981年劇団「第三舞台」を結成。紀伊國屋演劇院、コールプロダクション、演出士・監督など受託。現在は「KOKAMI@network」「虚構の劇団」での作・演出を中心に活動。映画監督、脚本家、エッセイスト、テレビの司会、ラジオパーソナリティ等としても幅広く活動している。

三大学教養教育共同化フォーラムを支えた学生たち

トークセッションの企画、DVDの制作は京都府立大学の清水美穂さんを中心に京都工芸繊維大学から3名、京都府立医科大学から3名、京都府立大学から清水さんも含めて5名の20歳~28歳の学生が参加した。準備は10月頃から始まり、「不安って何?」というテーマでDVDを制作しようとしたが、個人によって大きく異なるためとらまらず「だったら直接聞いちゃえ」と、三大学を回って学生から直接「今不安に感じていること」を質問した。その結果、現代学生気分が色濃く反映されたDVDが完成。講演会の後で上映した。

